

職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦について

文 部 科 学 大 臣 殿

令和5年10月31日

下記の専修学校の専門課程を職業実践専門課程として認定する課程として推薦します。

記

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
専門学校 九州スクールオブビジネス	昭和58年3月29日	渡邊 恵未	〒 812-0011 (住所) 福岡県福岡市博多区博多駅前3-8-24 (電話) 092-474-9231																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人Adachi学園	昭和42年1月12日	安達 暁子	〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2丁目11番地 (電話) 092-474-9231																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
商業実務	ビジネス専門課程	ビューティージネス学科	平成14(2002)年度	-	平成30(2018)年度																														
学科の目的	エステ、メイク、ネイル、アロマテラピーなど顔、体の美容や癒しのサービスを提供し、総合的に人の心も身も綺麗にする美容に関するプロを目指し知識・技術を習得する。職種としてはエステティシャン・メイクアップアーティスト・ネイリスト・化粧品販売の美容部員などを指す。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	美容業界への就職の武器となる取得を1つでも多く取り入れており、エステを始めメイク、ネイル等多様な資格取得を目指す。ビジネス・PCスキルもカリキュラムに組み込まれている。(昨年度中途退学者: 8.7%)																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,920 単位時間 単位	384 単位時間 単位	5,248 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																																
40人	15人	0人	0%																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>13</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>13</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>10</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>92</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>83</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>92</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>継続して就職活動</p> <p>(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 化粧品販売/エステサロン/呉服屋/ネイルサロンなど</p>							■卒業生数(C)	13	人	■就職希望者数(D)	13	人	■就職者数(E)	12	人	■地元就職者数(F)	10	人	■就職率(E/D)	92	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	83	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	92	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業生数(C)	13	人																																	
■就職希望者数(D)	13	人																																	
■就職者数(E)	12	人																																	
■地元就職者数(F)	10	人																																	
■就職率(E/D)	92	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	83	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	92	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																		
当該学科のホームページURL	https://www.kva.ac.jp/course/photo/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>6,880 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>64 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>64 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>64 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	6,880 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	64 単位時間	うち必修授業時数	64 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	64 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	6,880 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	64 単位時間																																		
うち必修授業時数	64 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	64 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																		
総授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																		
うち必修授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	2人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																		
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																		
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																		
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																		
計	2人																																		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成については、企業等と定期的に会議等を通じて意見交換を行なう。編成・改善を行なう協議内容は、授業教科目の名称や授業内容・方法の改善・工夫をはじめ、業界の動向をふまえ、働く為に必要とされる科目設定・授業内容等とし、授業方法は演習型授業(知識・技術)を主体に行なう。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校教育法第133条、並びに学校教育法施行規則189条、及び学校法人Adachi学園理事会の決議に基づき、教育課程編成委員会を置く。この委員会は、教育の質の保証及び改善をするため、専門学校九州デザイナー学院の教育活動の状況に関する評価を行い教育活動の更なる躍進の為活動をするものである。教育課程編成委員会で出された意見を基に、専任教員で行う学務会議で其々の意見を審議し、即時対応できるものは学科長がカリキュラムやスケジュールに落とし込む。校長及び学科担当で、学科間の調整を図り、各学期の始めに行われる講師会及び各学科の分科会で、学校・学科の方向性を示し、授業に反映させていく。問題が生じた場合は随時対応し、より良いものに変更を加えていく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
木村 保司	日本アロマコーディネーター協会 事務局長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	①
清水 収一	株式会社 サンク 代表取締役社長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	③
渡邊 恵未	九州スクール・オブ・ビジネス 学校長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	—
藤武 雅子	九州スクール・オブ・ビジネス 学科長	令和3年4月1日～ 令和5年3月31日(2年)	—
山本 重春	九州スクール・オブ・ビジネス 学生管理部	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回開催(毎年5月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年5月23日(月) 17:00～18:10 オンライン開催

第2回 令和4年9月15日(木) 17:00～18:00 オンライン開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第一回

質問:2020年からのコロナ感染症の流行の影響で、対面での販売や来店者減少により化粧品業界、エステティック業界などの美容業界ではSNSを活用した販売やカウンセリングなどで顧客を繋ぎ止め、感染防止対策の強化を図った。SNS対策の授業は組まれているのか。

回答:美容に関する知識や技術、コミュニケーション力は元より、「発信力」「提案力」「自発性」などが求められている。授業では、美容・エステの技術・知識だけではなく、コロナ禍で盛んに行われたリモート授業などを通して、PCスキルやSNSに対する抵抗感は無くなっている。

第二回

質問:今後は、少子高齢化に対する対策、及びSNSを活用した商戦、他社との差別化に力をいれる為、医療関連業種や他業種とのコラボも増加傾向にある。御校での活動や発信について確認させて頂きたい。

回答:コロナ禍では、対外的なイベントは控える傾向にあったことから、従来、行なってきたイベントは中止となったり、発表の機会が制

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ビューティー業界のみでなく、サービス、PCスキルの知識・技術向上を目的とし、より業界の求める人材育成のために、企業の方に制作課題を設定して頂き、実践的な演習型授業を行った上で、技術や対応能力の向上を図る。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

対象学生:1年後期『キャリアガイダンス』(32時間の中で8時間)内容:ショーやイベントでのヘアメイクの仕事理解

『福岡城ファッションショー』のヘアメイク及び運営の仕事の理解を深める。オフィス・アンフィニが手がけるショーのヘアメイクの実技、接客対応などショーにおける仕事を体学習験する。企業は学生へ、ヘアメイクイメージを伝え、また接客対応について指導を行う。企業は学生が手がけたヘアメイクのイメージと仕上がりの状態と来客、来場客の対応などを評価する。企業の評価を元に教員が評価を行い、単位の認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリアガイダンス	就職活動に向け、美容部員やエステ、イベントでのショーメイク、運営など仕事、業界の理解を深める(1年後期)	オフィス・アンフィニ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

①教育の質を客観的に保証するために、業界の動向・人材需要に即し、最新の実務の知識・経験に基づく実践的な知識・技術を教授すべく適切に教員に対する研修等を、教職員研修規定により行なう。

②教員のスキルアップ及び資格取得の指導力向上を図り、業界、団体主催の研修を定期的に受講する。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	ミスコンテスト	連携企業等:	Miss Galaxy of Beauty
期間:	2022年5月15日	対象:	教員・学生
内容	Miss Galaxy of Beauty2022西日本予選会「ミスコンテスト」		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ハラスメント研修(動画教材・eラーニングコンテンツを使用)	連携企業等:	Adachi学園グループ
期間:	2022年8月1日(月)～8月5日(金)の期間内	対象:	教職員
内容	ハラスメントの理解を深め、個人と組織としてのハラスメント防止対策について身につけることを目的。		
研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2022年11月29日(火)15:00～16:30	対象:	教職員
内容	「人権尊重の理念」～「可能性」に伝えるために～ 水平社から同和教育、いじめ・人種差別など		
研修名:	人権・同和研修	連携企業等:	福岡県・学事課、専修学校協会
期間:	2023年2月15日(水)15:00～16:30	対象:	教職員
内容	パワーハラスメント防止措置の義務化 および改正育児・介護看護法 グループディスカッション		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: シュウウエムラJMA検定講習会	連携企業等: 一般社団法人JMA
期間: 2023/7/29	対象: 教員
内容: JMA認定講師養成セミナー	
研修名: AJESTHE WEBセミナー	連携企業等: 日本エステティック協会
期間: 2023年12月予定	対象: 教員
内容: 生涯顧客が増える新規集客の具体的なノウハウ	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 人権・同和研修	連携企業等: 福岡県・学事課、専修学校協会
期間: 2023年11月28日	対象: 教職員
内容:	
研修名: 人権・同和研修	連携企業等: 福岡県・学事課、専修学校協会
期間: 2024年2月予定	対象: 教職員
内容:	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、卒業生、企業等の関係団体、地域住民などの専門学校と密接に関係するものと理解促進や連携教育により学校運営の改善を図る。限られた時間を有効に活用するために、重点課題などを取り上げ、集中した審議を行っていく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針の策定
(3) 教育活動	キャリア教育の視点に立った教育方法などの実施
(4) 学修成果	キャリア形成の効果を把握し学校の教育活動の改善
(5) 学生支援	卒業後の進路に関する体制の整備
(6) 教育環境	教育上または安全の十分な施設・設備の整備
(7) 学生の受入れ募集	高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組み
(8) 財務	目的・目標に照らした有効かつ妥当な中期計画的な年度予算
(9) 法令等の遵守	法令と設置基準等の遵守と適正な運営
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献のための学校の教育資源や施設を活用
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価と関係者評価の評価差異がどこにあるのか、異なる点を吟味することで、問題点を抽出する。当然、関係者評価が厳しい場合は、本校が行なっていることが伝わっていないか、評価されていない点だと真摯に受け止め、改善・改良を加えていくことに尽きる。今年度は全体的な決算を含めた状況報告の後、次年度の学園構想について、現在の取り組みや新たな学びの場について、それぞれ学校の責任者の立場から、関係者委員の方に向けてプレゼンを行った。参加委員からは賛辞の言葉も聞かれ、改めて、本校の教育方針に、ご賛同頂けたと感じた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
平田 章裕	福岡県洋菓子協会	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	業界団体
荻田 英二	(株)荻田商業建築デザイン事務所	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
田中 誠二	オリエンタルホテル福岡	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
福島 眞祐	福岡市博多区博多駅前3丁目2区自治会	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	自治会長
藤 厚久	福岡県博多女子高等学校	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要と認めた者
藤井 亨	株式会社Too 福岡支店	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要と認めた者
小川 倫恵子	アミ・シュプール	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生
溝江 多佳子	株式会社イクティス	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	学校長が必要と認めた者
後藤 大輔	税理士法人アーク・パートナーズ	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	会計士
吉塚 正希	株式会社映像ボックス	令和3年9月1日～ 令和5年8月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.ksb.ac.jp/information.html>

公表時期: 令和5年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

URL: <https://www.ksb.ac.jp/information.html>

公表時期: 令和5年10月31日

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材教養の目標・教育活動計画
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、卒業生数、卒業後の進路
(3) 教職員	各教員の担当科目、校務分掌組織等、教職員の研修・研究活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校・学科の行事(イベント)の取組とその評価結果
(6) 学生の生活支援	就職に関する体制、卒業生への支援体制
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い
(8) 学校の財務	事業報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.ksb.ac.jp/information.html>

公表時期: 令和5年10月31日

授業科目等の概要

(ビジネス専門課程 ビューティービジネス学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			硬筆書写検定	読みやすい文字を書き印象よい履歴書の書き方を学ぶ	1通	64	4		○		○				
	○			サービス接遇	敬語や挨拶の基本習得	1通	64	4		○		○				
	○			Word演習	Wordの基本操作、ビジネス文書作成を学習。Word文書処理技能認定試験3級取得を目指す	1前	32	2		○		○		○		
	○			Excel演習	Wordの基本操作、表やグラフ作成を学習。	1後	32	2		○		○		○		
	○			パーソナルカラー	アシスタントパーソナルカラーコンサルタントに必要な知識と人の個性を分析する実践力を身につける	1通	64	4		○		○			○	
		○		企業研修Ⅰ	授業内で学んだ知識・技術を生かし、企業の求める人材となるため、実践を行う	1後	64	4		○			○	○		
		○		企業研修Ⅱ	授業内で学んだ知識・技術を生かし、企業の求める人材となるため、実践を行う	1後	64	4		○			○	○		
			○	エステ概論・衛生管理	エステティックの本質を知り歴史や産業としての理解と正しい知識を持つ	1前	32	2	○			○			○	
			○	皮膚と化粧品	皮膚の構造と働き、仕組みを理解する	1前	32	2	○			○			○	
			○	化粧品検定	肌トラブルの状態、要因、ケアのポイントを理解しアドバイスができるようになる	1後	32	2	○			○			○	
			○	美容基礎	化粧品を扱う上で必要な法律や剤型、原料の特徴や機能、効果を理解し適切な選択及びアドバイスができるようになる	1前	32	2	○			○			○	
			○	カウンセリング	美肌やプロポーション維持に欠かせない栄養素とその効果、摂取方法をアドバイスできるようになる	1後	32	2	○			○			○	
			○	フェイシャルエステ	フェイシャルエステティックの目的と効果を理解し、基本的な流れと技術を習得する	1通	192	12		○		○		○		

授業科目等の概要

(ビジネス専門課程 ビューティービジネス学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
		○	ボディエステ	認定エステティシャン資格取得に向けたボディエステティック実技取得	1通	128	8		○		○		○		
		○	メイク演習A	スキンケアの手順、ベースメイクの作り方、ポイントメイクの表現などメイクアップの基本テクニックを習得する	1通	128	8		○		○		○		
		○	認定エステティシャン	エステティシャンになる上で必要な知識を学ぶ。センター試験例題集を紐解きながら知識の習得と認定エステティシャン合格を目指す	2通	128	8	○			○		○		
		○	AJESTHEセミナー	センター試験の内容をさらに深めて、アドバイス力・コンサルテーション力を高める	2通	128	8		○		○		○		
		○	ビューティービジネス	リフレクソロジーの成り立ちと反射区を理解し、予防美容の一つとしての知識と技術の習得	2通	64	4		○		○		○		
		○	フェイシャルアドバンス	AJESTHE上級エステティシャン試験に合格する。肌診断、コンサルテーション、応用手技のマスター	2通	192	12		○		○		○		
		○	ボディアドバンス	ボディマッサージテクニックの上達と応用力を身につけ「AJESTHE上級試験」合格を目指す	2通	128	8		○		○		○		
		○	アロマセラピー	精油の特色や取り扱い方を理解する アロマコーディネーターとしての基礎知識を身につける	2前	64	4		○		○		○		
		○	サロンワーク	サロンでの実践をイメージして接客対応、トリートメント、次回来店につなげる意識を持ち、様々な美容技術をコーディネートし、応用力を身につける	2通	128	8		○		○		○		
		○	ネイル	JNEC3級取得 ネイルの基礎を学び知識と技術をマスターし検定合格を目指す	1通・2	256	16	##	○		○		○		
		○	総合演習	エステティシャンとしての自覚と現場で即戦力になれる応用力を身につける	2後	64	4		○		○		○		
		○	メイク演習B	スキンケアの手順、ベースメイクの作り方、ポイントメイクの表現などメイクアップの基本テクニックを習得する	1前	64	4		○		○		○		
		○	ヘアアレンジ	各道具の扱い方、毛髪知識、造形知識 基本の技術を組み合わせる簡単なまとめ髪のアレンジができることを目標	1通	128	8		○		○		○		

授業科目等の概要

(ビジネス専門課程 ビューティービジネス学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	メイク演習C	スキンケアの手順、ベースメイクの作り方、ポイントメイクの表現などメイクアップの基本テクニックを習得する	1通	192	12		○					○	
			○	IBF	イメージの捉え方を理解 似合わせとイメージメイクでモデルの雰囲気を変えられる	1後	64	4		○				○		
			○	カラー診断	色の特性を理解しその人にあった最適なカラー選びやアドバイスができる	2前	32	2		○					○	
			○	メイクアップクリエイションA	メイクの基本テクニックを身につけ、更に想像力・表現力も養う オリジナルのメイク作品を制作できるようになる	2前	96	6		○					○	
			○	メイクアップクリエイションB	コンテストエントリーに向け、アーティスティックな作品をオリジナルで制作できる力を身につける	2通	128	8		○					○	
			○	メイクアップクリエイションC	クオリティー高い商品を作るため、細かなテクニックの精度を上げる	2後	128	8		○					○	
			○	ヘアデザイン	ブライダル・和装ヘア伝わるデザイン画が描けること 多様なシーンに対応できること綺麗に短時間で仕上げる	2通	128	8		○				○		
			○	クリエイティブネイル	JNECネイリスト技能検定試験合格を目指す ジェルネイルの基礎を学び知識をマスターする	2通	128	8		○					○	
			○	着付け	着付の基礎知識を習得し、準備・助手ができるようになる	2後	64	4		○				○		
			○	英会話	簡単な英会話ができるようになる	2通	64	4	○						○	
			○	ビジネス実務マナー	検定3級合格 社会人として役に立つ知識を修得 マナーを通して人間力を高める	2通	64	4		○				○		
			○	キャリアガイダンス	自分発見 企業リサーチ PR動画作成の準備	1通 2通	128	8		○				○		○
			○	ホームルーム	コミュニケーション力の向上と、問題解決力、目標設定が自らできるようになる	1通 2通	128	8		○				○		

授業科目等の概要

(ビジネス専門課程 ビューティービジネス学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	スキルアップ I	学びの成果の確認とフォローアップ 就職活動への意識を高め業界EXPOに向けた準備と 取り組みで早期内定を目指す 接客コンテストでグランプリを目指す	1前	32	2	○	△		○		○		
			○	スキルアップ II	2年前期履修カリキュラムの復習・サポート授業 実施 業界就職・修飾後のサポート オンライン留学の実施から個々の視野を広げる	2前	32	2	○	△		○		○		
			○	キャリアアップ	1年次の振り返りから課題を知り改善する 就職内定に向けて個別指導を行い、目標を持って 取り組める体制を整える	1後	32	2	○			○		○		
			○	特別補講	自ら考えて、企画・提案ができるようになる ヘアメイクショーやスチューデントサロンで学び の成果を形にする	2後	32	2			○		○	○		
			○	ワーキング・スタディ	授業内で学んだ知識・技術を生かし、業界の求める人材となるため、学校指定の会社にて実践を行う	1通 2通	384	24			○		○	○		
			○	企業研修A	授業内で学んだ知識・技術を生かし、企業の求める人材となるため、実践を行う	1後 2通	720	45			○		○	○		
			○	企業研修B	授業内で学んだ知識・技術を生かし、企業の求める人材となるため、実践を行う	1後 2通	720	45			○		○	○		
			○	短期留学	受け入れ先による								○		○	
合計						46	科目	352 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：卒業規程単位の取得等、卒業合格条件を満たすこと。	1学年の学期区分	2期
履修方法：各学期毎に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。